

斎藤祥子\* ○高野美栄\*\* 北村トモエ\*3 鈴木良子\*4 成田巳代子\*5 田岡洋子\*6  
 (\*北海道教育大函館校 \*\*東京家政学院短大 \*3 大阪女学園短大 \*4 仙台白百合  
 短大 \*5 滋賀女短大 \*6 京都短大)

目的 21世紀は超高齢化社会が予測され、社会問題としてクローズアップされている。部会では高齢者にこころよい服装色嗜好について単色と二色配色の調査を行なってきた。本報では三色配色の地域別特性の検討を試みた。人は加齢に伴って気候、風土、慣習などの影響を受けやすい。したがって三色配色における心理面などを検討し、高齢者にやさしい配色嗜好の基礎資料となることを目的とした。

方法 対象、調査時期、手続き、分析は(1)報と同様。地域別、都道府県コードに準じ、1群471名(北海道01, 青森02, 宮城04, 山形06)、2群732名(埼玉11, 千葉12, 神奈川14, 新潟15, 山梨19)、3群566名(東京13)、4群232名(岐阜21, 京都26, 大阪27)。基本属性は性別(男644, 女1,357)、老年前・後期(65~74歳1,312, 75歳以上689)、職業(有325, 無1,676)、未既婚(未81, 既1,920)、世帯(1人434, 夫婦354, 他と同居1,020)、住居形態(一戸建1,623, 集合376)である。

結果 地域別三色配色嗜好色は、1群の1位はN7.5とN5.4とN3.6、2群は3.6YRとN9.3と10.0YR7.1/1.5、3群はN7.5とN5.4とN1.2、4群は3.6YRと4.8Yと10.0YR7.1/1.5となり1群の東北と3群の東京が無彩色、2群が黄赤と無彩色、4群が黄赤と黄で明度差は大きい。色相別嗜好色では1群と3群の相関が0.71で高い。三色配色では2群の関東と3群の東京が類似している。全群共に同色相または色相間の近い色彩を選択している。無難な、落ち着いた配色嗜好で、配色数が増すほど色数も多くなり、同じ配色の出現率は低くなる。